



山添 和良 議員
(市民クラブ)



一般質問

■全国学力・学習状況調査結果を活かすには

教育施策の改善を図れ！

質

全国学力・学習状況調査という行政調査の結果は、教育施策の改善にこそ活かすべきだと思つ。全国的には「思考力・表現力に課題がある」との分析がなされているが、本市においても同様の傾向が見られたか。また、そうした傾向が見られたとすれば、課題克服のための具体的展望はあるか。文科省の資料には、「読書活動を推進することで、読解力・理解力・表現力の向上が期待できるとあるが、読書活動推進の取り組みを進めるつもりはあるかも伺う。

答

本市の傾向として、昨年度との比較で、特に小学校においては国語科、算数科共に記述式問題において成果が見られたが、算数科の思考力、判断力、表現力においては、やはり課題が見られた。中学校においては、数学科の知識・技能において成果は見られたが、国語科、数学科共に思考力、判断力、表現力で課題が見られた。

思考力、判断力、表現力の項目で課題が見られたことから、市の重点項目として、授業で自ら学ぶ時間を設定し、ICTも活用しながら子供たちの考えを可視化したり共有したりしながら、多様な考えに触れ、交流する機会を授業で設定することを各学校に指導している。

また、読書活動推進に関しては、蔵書を増やす取り組み、学校図書館司書の研修等および地域での読み聞かせボランティアの方たちを拡充していくことに取り組んでいる。



木戸 奈諸美 議員
(あすなろ)



一般質問

■スクールソーシャルワーカーについて

切れ目ない不登校支援策を！

質

スクールソーシャルワーカーの存在周知と活用について、市独自の支援制度が必要ではないかと考えるが、見解を伺う。

答

例年、県からの通知を受け、制度や職務内容、派遣に関する手続等について各学校に対して周知しているが、加えて保護者に対しても周知していきたい。今後も機会を捉えてスクールソーシャルワーカーの積極的な活用を促していく。

学校現場において児童・生徒が置かれている様々な環境に着目して、働きかけることができる人材や、学校内あるいは学校の枠を超えて関係機関との連携をより一層強化し課題解決を図るためのコーディネーター的な存在が求められており、各学校においてスクールソーシャルワーカーを活用する場合、事前に依頼内容を相談した上で、市教委を通じて県に派遣を要請し、派遣先の学校長の指示の下、生徒指導担当教諭や学級担任等と連携、問題を抱えた児童・生徒の家庭への働きかけや関係機関との連携の調整を図るなどの対応に当たることになっている。どの段階で依頼をするのかは、校内で管理職、生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラー等による該当の子に関するケース会議で、家庭にどの程度介入していくかということが決められたときに判断するが、それ以前に校内で生徒児童・生徒理解の会というものがあり、そこで判断し活用していくということも周知していく。